

□ 次は吉村昭の小説『欠けた月』の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

終戦後、物のない時代、「私」は倒れた父の往診をようやく探し当てた町医者に依頼するが、米や麦などの届け物がないという理由で冷たくあしらわれる。冷淡な対応を、自分が未成年であるせいだと思つた「私」は、失意のなかある遠方の医院を訪ねる。医師と対面したものの、萎縮した「私」は、逃げ出したい気分であつた。

医師は、黙つたまま私の顔に視線を据えている。オールバックにした髪が、黒々と見えた。眼鏡の奥に光る眼には、何の感情もあらわれてはいなかった。私は口をつぐみ、視線を落とした。医師はそのまま立っていったが、やがて背を向ける気配がした。顔をあげた私は、医師が小道を引き返し、①カタを張つた体が本堂のかげに消えるのを見つめていた。

1 私は、顔をこすり、乾いた唇をなめた。医師は、私の訴えを耳にしたはずだが、何の反応も見せずに去つた。和服を着ていた医師は、おそらく食後の休息でもとつていて、ふいに訪れてきた私の思いがけぬ申し出に気分を②損ねたのだろう。黙つたまま引き返していったのは、未成年の私に返答をする気にもなれなかつたからにちがひなかつた。

2 門の柱に、背をもたせかけた。③羞恥で体が熱くなり、再び自分の年齢が恨めしく感じられた。どこへ行こうか、と思つた。父の家に帰る気にはなれず、このまま見知らぬ遠くへ地へでも行つてしまおうか、胸のなかでつぶやいた。が、父の元を離れば食物と無縁になり、飢え死にすることにもつながる。それに、せつかく月謝を払つて通いはじめた予備校へも行けなくなる、と妙なことを考えていた。私は、門の柱から背をはなした。

石段をおりはじめた私は、背後に自転車の車輪のまわるかすかな音を耳にして、振り返つた。私は、立ちすくんだ。和服を背広に着替えソフトをかぶつた医師が、黒い鞆をつけた自転車を押して近づいてくる。医師は、門をくぐり、自転車を抱えて石段をおりると、「荒川放水路の向こうだと言つたね。」と言つて、サドルに腰をおろした。初めて耳にする医師の、少ししわがれた太い声であつた。

私は、ブレーキをかけておりてゆく自転車の④カタワラについて坂道を走りおろした。胸に熱いものがひろがり、目の前がかすんだ。3 信じられぬことが現実に起こつているのだ、と思つた。夢を見ているような気持ちであつた。陸橋から町におり、焼け跡の中を進んだ。医師は、私の歩みに合わせるようにゆっくりとペダルをふんでゆく。私は、半ば走りながら前後して自転車についていった。月がかなり高くなつていて、光も冴えを増していた。路面は至る所にくぼみがあつて、医師はそれらを避けてハンドルを動かしていたが、時折、車輪がくぼみに入ると、その度に体が⑤ハズんだ。4 医師は無言であつたが、私は、気づまりを感じることはなかつた。夜道を来てくれていている医師に申し訳ないという思いと、自分の願いがかなえられた喜びに満ちていた。

問一 二重傍線部①～⑤のカタカナは漢字で、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 傍線部1・2の動作から読み取れる「私」の心情を説明した、次の一文の空欄に、漢字二文字の熟語をそれぞれ補い、文を完成させなさい。

医師が去つたことで i が解けたものの、返事さえもらうことができず、 ii している。

問三 傍線部3とあるが、私にとつて「信じられぬこと」とはどのようなことか。三十五字以内(句読点を含む)で書きなさい。

問四 傍線部4からは、「私」の医師への信頼が読み取れる。その伏線となる医師の動作を描いた部分を、本文から二十五字程度で抜き出し、その初めの五字を書きなさい。

問五 本文から読み取れる「私」の人物像として、最も適切なものを次から選びなさい。

- ア 何事にも積極的に取り組み、少々のことには動じない、強い意志を持った人物。
 イ 目の前で起こつた変化に柔軟に対処でき、打算的である賢い一面も感じられる人物。
 ウ 繊細で、未成年らしい自己中心的な側面がある一方、相手のことも考えられる人物。
 エ 今直面している状況に一喜一憂する、先のことをあまり考えない短慮な人物。
 オ 内向的な性格ではあるものの、あまり物事を悲観せず、前向きに考える人物。

〔二〕次は『徒然草』十一段全文である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

1 神無月のころ、くるすの来栖野といふ所を過ぎて、ある山里に2 たづね入ること侍りしに、遙かなる苔の細道をふみわけて、心細く住みなしたる庵あり。木の葉に埋もるかけひ懸樋の雫ならでは、3 つゆおとなふものなし。あかたな閑伽棚に菊・紅葉など折り散らしたる、さすがに住む人のあればなるべし。

4 かくてもあられけるよと、あはれに見るほどに、かなたの庭に5 大きなこうじ柑子の木の、枝もたわわになりたるが、まはりをきびしく困ひたりしこそ、少しことさめて、6 この木なからましかばと覚えしか。

懸樋……庭などに水を導くためにかけ渡したとい。

閑伽棚……仏に供える水や花などを置く棚。

柑子……みかんの類。収穫期は秋から冬。

問一 傍線部1について、(一)読みをひらがなで記し、(二)陰暦の何月のことか、漢数字で答えなさい。

問二 傍線部2の後に補う語(助詞)として最も適切なものを、次から選びなさい。

問三 傍線部3の口語訳として最も適切なものを、次から選びなさい。

問四 傍線部4を、具体的内容を補って口語訳したものとして最も適切なものを、次から選びなさい。

問五 傍線部5は、みかんの木のどのようすを述べたものか。最も適切なものを、次から選びなさい。

問六 傍線部6に表れている、庵に住む人に対する作者の気持ちとして最も適切なものを、次から選びなさい。

問七 右の『徒然草』について、(一)書かれた時代、(二)作者名、それぞれ漢字で答えなさい。

③ 次の空欄□に適切な漢字を入れて四字熟語をつくり、その意味を後の語群から選び、記号で答えなさい。

解答欄記入例

⑪

闊
サ

- ① 前□洋々 ② 牛□馬食 ③ 適□適所 ④ 同工異□ ⑤ 薄□多売
⑥ 無我□中 ⑦ 前人□踏 ⑧ 無病□災 ⑨ 平身□頭 ⑩ 理□整然

(意味)

ア 見かけは違うが同じ手際であること。

イ もうけを少なくして品物を多く
売ること。

ウ あることに熱中して我を忘れること。

エ 物事や話の筋道が整っているこ
と。

オ 今まで誰もなしえなかつたこと。

カ 将来有望であること。

キ 才能に最もふさわしい用い方をする事

ク たくさん飲んだり食べたりする
こと。

ケ 病気もせず元気であること。

コ 身をかがめ恐縮するさま。

④ 次の文学作品の作者名を漢字で答えなさい。

- ① 源氏物語 ② 奥の細道 ③ 吾輩は猫である
④ 注文の多い料理店 ⑤ 人間失格